

新設茶屋「涼感」かき氷

京田辺 さんさん山城

旬の万願寺、笑顔で収穫

ランチ 早速「天ぷら定食」に



ビニルハウスで万願寺トウガラシを収穫する利用者たち



パンパンに実った万願寺トウガラシに笑顔が弾ける

京田辺市奥戸の田辺警察署隣りにある障害者就労支援事業所「さんさん山城」(新免修施設長、藤永実管理、定員20人)にある「コミュニティカフェ」は新型コロナウイルスでしばらく営業を中断していたが、今月初めから日替わりワンコイン(500円)ランチを再開。16日も今朝、取れたばかりの自家栽培野菜をふんだんに使った天ぷら定食が人気を呼び、70食を完売した。利用者それぞれ個性や特技を発揮して隣接する屋外に「さんさん茶屋」を新設。コロナによるイベント中止にめげず、見込んでいた売り上げを少しでも得ようと、自家製抹茶を材料にしたシロップも並ぶかき氷を販売し、これから迎える暑い夏も家族連れなどに涼を感じてもらい、カブトムシ、クワガタムシも待つ憩いスポットを堪能してーと呼び掛ける。

聴覚障害を持つ人の 者が農業を通じて社会就労を支援する場として2011年4月に開設した社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会運営の就労継続支援B型山城就労支援事業所「さんさん山城」は、開設当初から障害者

月半ばの茶摘み開始も見据え、4月末からコロナ感染防止のために閉所。天候にも恵まれ、茶摘みをやりに来た利用者やスタッフは現在、市内各所で管理する畑で栽培する田舎ナスやタマネギ、ジャガイモなどの収穫に励んでいる。

梅雨の合間、朝から晴れ渡った16日も朝から、施設敷地にあるビニルハウスで「さんさん茶屋」を充実させた万願寺トウガラシを一つひとつ丁寧に刈り取っていた。今月1日に再開した日替わりランチのメニューは天ぷら定食で、万願寺をは

じめ、この日に取れたばかりの自家野菜を早速、からりと油で揚げた。70食は瞬く間に売切れ、女性のグループ、夫婦ら訪れた客たちはシャキシャキ、パリパリの食感と新鮮な風味を心行くまで満喫した。

開設当初からのメンバーで、調理をはじ



屋外に新設した「さんさん茶屋」でかき氷を味わってください

店でも活躍する佐古恵美さんは「タマネギがとっても甘い。食べて気持ちいい。野菜を買って帰られる方も多い」と

晴れ晴れと伝える。人手が欲しい5月のエビイモ定植などの際には、佐古さんら女性陣も農作業に加わるという。

一方、コロナで夏の小学生ハンドボール大会など数あるイベントの中止が発表され、織り込んだ売り上げが霧と消える中、昨年購入したかき氷製造機を活用すべく、玄關横の野外に「さんさん茶屋」を新設。夏に向け、賑やのれんもあつらえた茶屋には、得意な利用者が手掛けた床几、スロープも配置し、同じく利用者手づくりの風鈴や飾りも涼感を添える。カブトムシやクワガタムシを捕まえる名人もいて、子供たちを喜ばせる準備も着々と進められている。

惜しげなく材料に使った抹茶味をはじめ6種類の取り揃えるかき氷の販売に新免施設長は「抹茶かき氷は濃密な味で、他にない。3密を回避。イベント、模擬店ではできないが、毎日の売り上げを積み上げたい」と期待を寄せる。藤永管理者は「カフェをやり始めて丸3年。コロナでイベント出店が叶わない中、カフェがある有難

ジュースの糖分こんなに

京田辺 19日まで「食育知ろう」展



ジュースの糖分をシュガースティックの数に換算すると? (京田辺市役所2階ロビー)

京田辺市役所2階市民ロビーで食育月間(6月)にちなんで展示「食育について知ろう」が開かれ、来庁者の心を引き付けている。

国が、6月を食育月間、毎月19日を食育の日として、食に関する様々な知識や選別力、身に付け、健全な食生活を送ってもらうこと、啓発するもの。市

健康推進課が行う展示では、健康への第一歩として、▽1日3食をバランスよく▽腹8分目▽栄養価の高い旬の食材を▽よく噛んで食べようなど、「毎日

また、「しいたけたっぷりかきたま汁」など市食生活改善推進員(食改)が作成したレシピカードや、減塩をアピールするパンフレット(金)を配架。展示は19日(金)までの開庁時間に行う。問い合わせは同課直64・1335まで。

の食卓からやってみよう」と、項目を並べ実践を呼び掛ける。

「おやつは1日200円まで(トータルの1割まで)」とチョコレートやあんパン、大福などの実物大写真とそれぞれの熱量を示して食べ過ぎに注意を促すのをはじめ、ジュースに含まれる糖分が「スティックシュガー」何本分に相当するか?を一目瞭然にした。

無料体験 いっぱいOK! THEOZ KITCHEN

近鉄新田辺・JR京田辺駅より徒歩約15分。問い合わせは同施設 直39・71113まで。